

しず 清水遺跡 (4) 発掘調査説明資料

財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成 23 年 9 月 7 日

調査要項

遺跡名(番号)	清水遺跡(4)(平成11年度登録)
所在地	山形県村山市大字名取字清水北
時代・種別	奈良・平安時代 集落跡
起因事業	東北中央道(東根～尾花沢間)
調査依頼者	国土交通省山形河川国道事務所
調査機関	財団法人山形県埋蔵文化財センター
現地調査	平成23年7月20日から9月9日まで
調査面積	1,100㎡
調査担当者	調査員 渡部裕司(現場責任者) 調査員 濱松優介

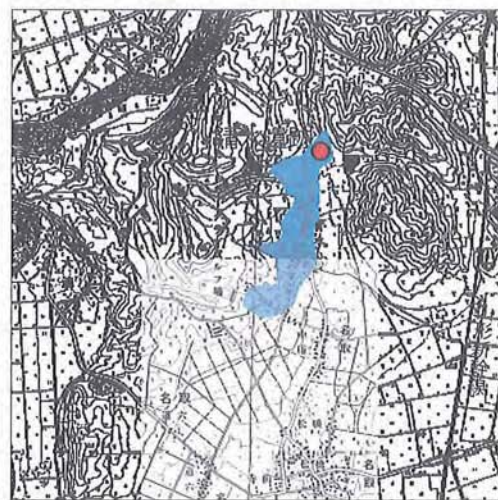


図1 遺跡位置図(1/50,000)

調査成果(9月5日現在)

検出遺構	窯跡1 土坑3 柱列1 柱穴10 溝跡3 性格不明遺構1 倒木痕4
出土遺物	土器 土師器 石器 ナイフ形石器

1 調査の概要

清水遺跡は、村山市東部の最上川が蛇行する右岸部に位置し、清水地区のなだらかな丘陵部上にあります。現在は、田畑と山林が広がっています。平成22年度に行われたトレンチ調査の結果を基に調査区を設定し、遺跡の北東部の調査区を清水遺跡(4)として、1,100㎡を調査しました。

2 見つかった遺構と遺物

調査区内東側では、斜面に直行するように柱列が見つっています。さらに柱列の西側には3本の溝跡が並んで見つかりました。南側では倒木痕が複数確認されています。遺物は、土師器の破片と石器が出土しました。石器は頁岩製で、片側に刃部を持つナイフ形の石器です。

また東側斜面では、炭窯跡が見つっています。窯の焚口部分の平坦部からは、窯から掻きだした炭化物や焼けた石が見つっています。さらに窯の内部では、壁面の一部分が赤く焼けている状態が確認されました。

3 まとめ

発掘調査の結果、柱列、溝跡、炭窯跡等が発見されました。このうち、柱列や溝跡は傾斜のある地形に沿って作られ用いられていたと考えられます。

東側斜面で発見した炭窯跡は、残存している形状や堆積状況から、近現代に作られた炭窯と考えられます。現在、炭窯跡がある山地には杉が植林されていますが、植林以前は窯を築き生活に必要な炭の生産を行っていたことが分かりました。

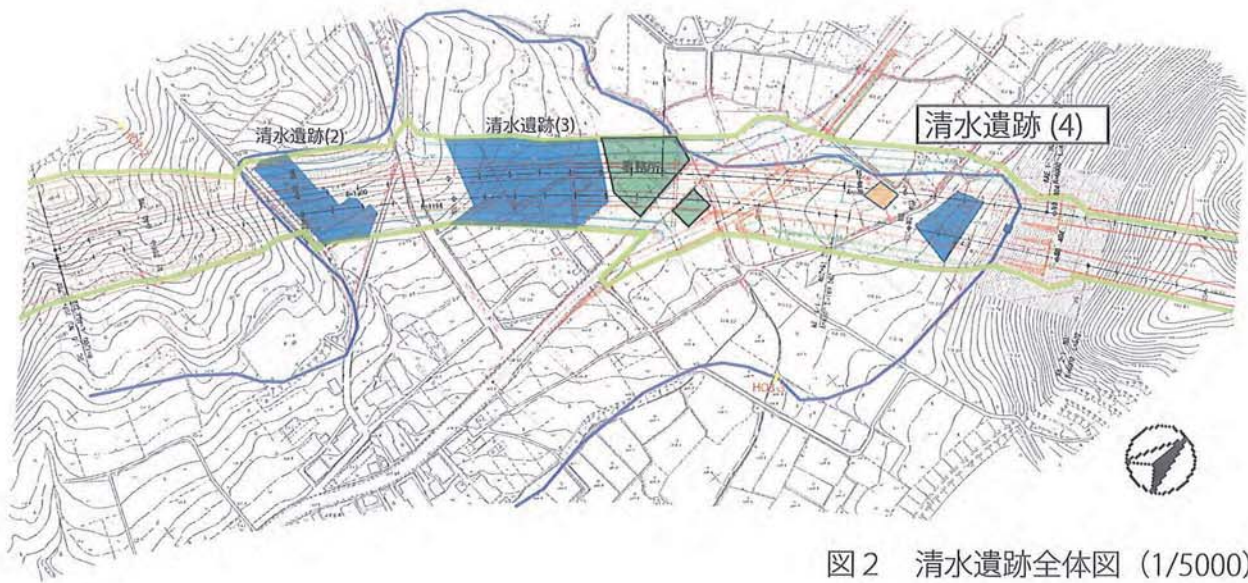


図2 清水遺跡全体図 (1/5000)

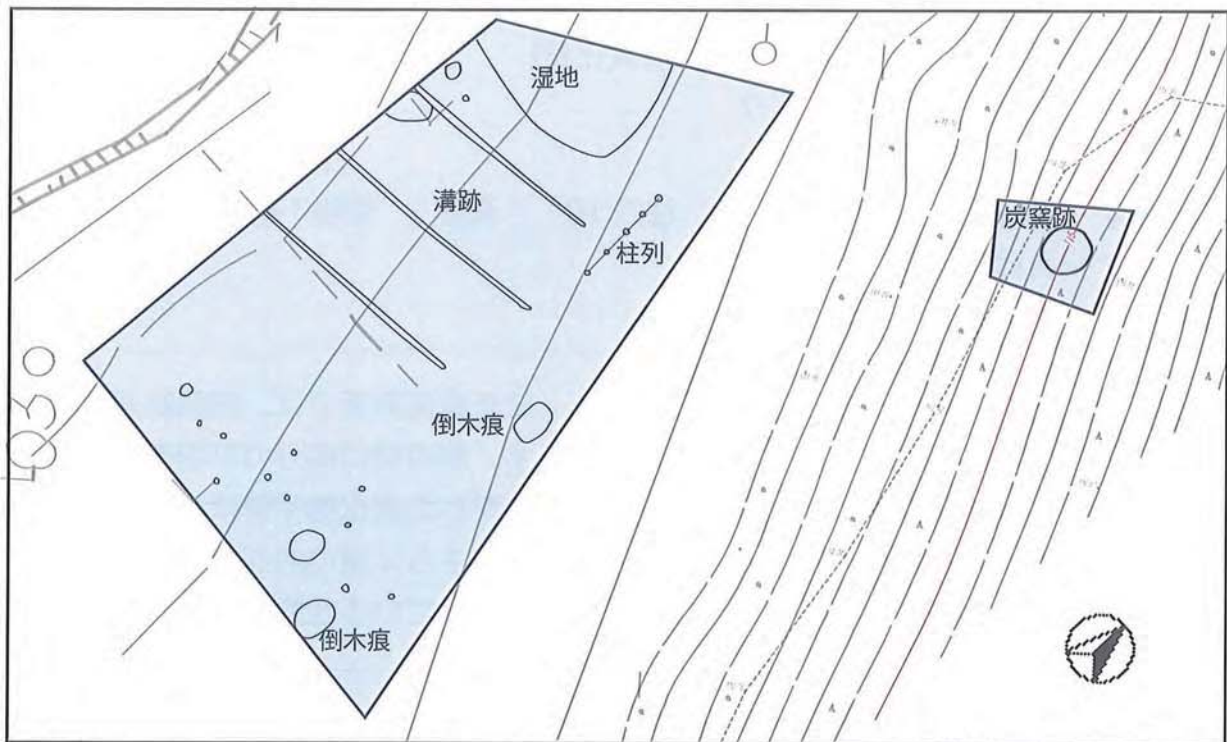


図3 遺構配置図 (1/500)



写真1 窯跡全景(東から)



写真2 石器出土状況